②いかだのりの神さま(増口)

増口の椿井の森に、まつられているのは、水分神社であるが、そこの神さまは、とくにいかだのりの神さまとして、あがめられていた。

いかだのりというのは、今はまったくなくなったが、材木をいかだにくんで、それを下流に流していく仕事をする人のことである。

吉野の材木も、おもにいかだによって下流へ運ばれたのだが、ちょうど神社のあるま下あたりの吉野川は、はげしい流れが岩をかんで流れているところで、いかだのりの難所といわれていた。毎年事故がおこって、死者や負傷者がでた。

そこでいかだのりたちが、いろいろ相談のすえ、自分たちをまもってくれる神さまとして、高さ六十一段、幅四メートルもある扁状の石英安山岩の石段を献納した。明和四年(一七六七)のことである。それからのち事故がまったくなくなったというので、いよいよいかだのりたちから、自分たちの神さまとして、あがめられたということである。